

一〇二二年一月二二日

体育館凍つに健康体操す  
寒風にたてがみなびく御崎馬  
吉書揚花丸の書もをしみなく  
洞に在す無縁仏に初日影  
駄菓子屋にバス待つ子らへ冬日燐

はく子  
素秀  
かかし  
うつぎ  
うつぎ

大粒の苺供へて父悼む  
初壳の抽選会は外れなし  
懐手せしままに聴く訃報かな  
あたたかや鳥語ゆたかに宮の森  
寒稽古小さき拳が板を割る  
降る雪や丹後に古し天主堂  
大鳥居くぐりてよりの淑氣かな  
鰯酒の熱きを吹きて香に酔ひぬ  
姉希望妹きぼう書初す  
竹割るる音研せり夜の雪  
広縁へさす老松の初日影

なつき  
かかし  
うつぎ  
わかば  
小袖  
凡士  
こすもす  
よう子  
よう子  
凡士

新しき眼鏡の向かう寒茜  
リハビリの足を延ばしぬ探梅行  
恙なく笑みて跨ぎぬ去年今年  
検問の灯の弧を描く寒風裡  
福寿草出でて白砂を零しけり  
寒林に出会ふ郵便配達夫

素秀  
むべ  
よしこ  
よしこ  
宏虎  
よう子

毎週句会秀句・みのる選・一〇二二年一月二三日

愛正